

さっぽろセミ通信

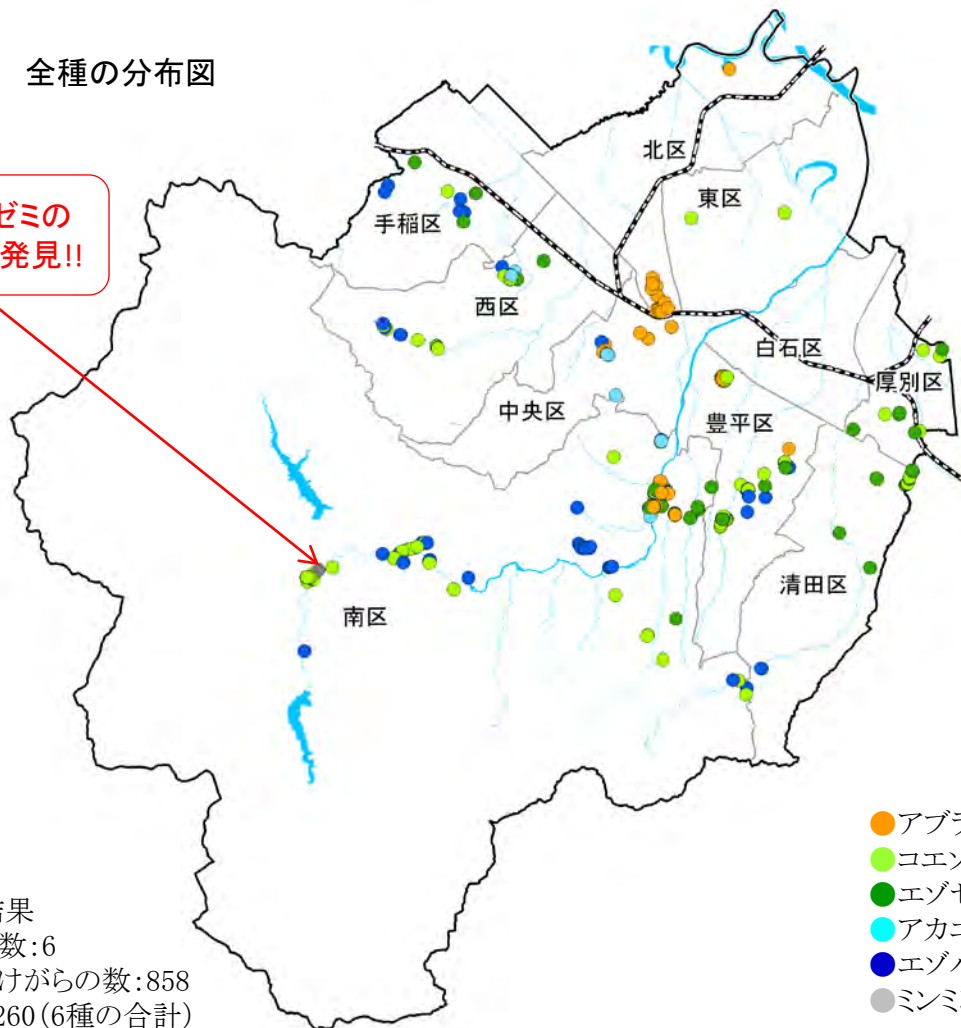
No.2(2009.9.15) 発行:札幌市博物館活動センター

札幌市博物館活動センターでは市民の皆さんに参加していただいて、2008年から「札幌市セミ調査」をスタートさせ、札幌のセミの生息状況を記録しています。この「さっぽろセミ通信」では調査の途中経過をお伝えしていきます。

9月に入り、セミの鳴き声もほとんど聞こえなくなっていました。そろそろエゾゼミ類やエゾチッチゼミが数頭鳴いているくらいでしょうか。札幌市博物館活動センターにはすでに昨年の調査を大きく上回るぬけがらが寄せられています。ホームページでもお知らせしていますが、今年の調査で新たにアカエゾゼミとミンミンゼミのぬけがらが見つかりました。現時点(9月15日)の集計結果をお知らせします。

全種の分布図

ミンミンゼミの
ぬけがら発見!!



現在の集計結果
見つかった種数:6
寄せられたぬけがらの数:858
採集地点数:260(6種の合計)

- アブラゼミ
- コエゾゼミ
- エゾゼミ
- アカエゾゼミ
- エゾハルゼミ
- ミンミンゼミ

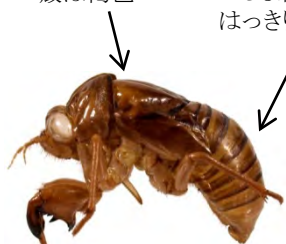
アブラゼミとミンミンゼミのぬけがらの違い

両種のぬけがらはよく似ていますが、下のような違いがあります。アブラゼミのぬけがらの中にミンミンゼミが混ざっているかもしれません。よく観察してみましょう。(TK)

触角は太く、毛がたくさん生えている



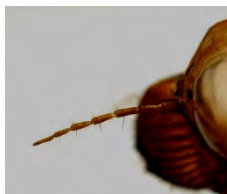
殻は褐色



アブラゼミ

腹部の濃い茶色のしま模様がはっきりしている

触角は細く、毛がまばらに生えている



殻は透明感のある淡褐色



ミンミンゼミ

腹部のしま模様がはっきりしない

アブラゼミ

寄せられたぬけがらの数:311

採集地点数:55

道庁や大通公園、知事公館など市街地の公園からも見つかりました。発生量も多いようで1地点から多数のぬけがらが寄せられることもありました。



コエゾゼミ

寄せられたぬけがらの数:308

採集地点数:81

山地から平地まで市内各地からぬけがらが分かり、最も採集地点の多いセミとなりました。



エゾゼミ

寄せられたぬけがらの数:107

採集地点数:52

主に低山地の森林や公園から見つかっています。特に札幌市東部の豊平区、清田区、厚別区には多いようです。



アカエゾゼミ

寄せられたぬけがらの数:9

採集地点数:9

エゾゼミと同じように主に低山地の森林から見つかっていますが、個体数はエゾゼミよりもだいぶ少なく、生息地も限られているようです。エゾゼミのぬけがらがよく見つかる札幌市東部からはまだ見つかりません。



エゾハルゼミ

寄せられたぬけがらの数:122

採集地点数:62

今年の春は各地で大合唱が聞かれました。針葉樹の植林地で大発生していた場所もありました。すでに成虫の活動時期は終わり、鳴き声は聞こえませんが、最近でもぬけがらが寄せられています。



ミンミンゼミ

寄せられたぬけがらの数:1

採集地点数:1

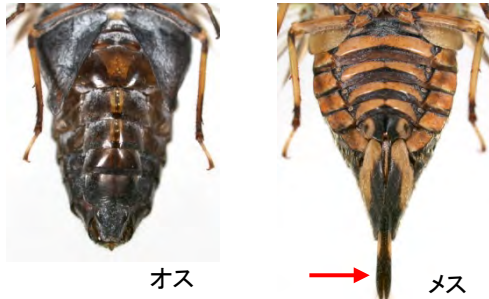
これまで札幌市内で発生しているか疑問でしたが、今回の調査で南区定山溪からぬけがらが見つかり、発生していることが明らかになりました。



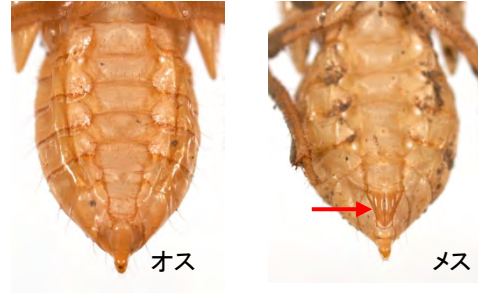
ぬけがらからわかるオスとメス

セミの幼虫はオスもメスも一見同じような体型をしています、簡単にオスとメスを見分けることができます。セミのメス成虫には、枯れ枝に卵を産み込むための「産卵管」(左下図の矢印)という針状の器官があります。ぬけがらをひっくり返してお腹側から見ると、メスの場合は腹部の先端近くに将来、産卵管になる器官(右下図の矢印)があります。これがあればメスで、なければオスということがわかります。どの種類のセミでも同じように区別することができます。ぬけがらを調べると羽化したセミがオスだったのか、メスだったのかもわかるのです。(TK)

＜ツクツクボウシの成虫の腹部腹面＞



＜ツクツクボウシのぬけがらの腹部腹面＞



ぬけがらの口を見るとグループが分かる

セミはカメムシ・ヨコバイ・アブラムシなどとともに半翅目(カメムシ目)というグループに属している昆虫です。このグループの最大の特徴はストローのような細長い管状の口を持っていることで、その口を使って汁を吸って生活しています。セミの成虫は樹木の幹や枝から汁を吸い、幼虫は土の中で木の根から汁を吸います。もちろん、ぬけがらでもストローのような口を観察することができます。カメムシやヨコバイを捕まえることができたなら、セミのぬけがらと口を比べてみて下さい。きっと同じグループだということが分かるでしょう。(MS)



アブラゼミ



キバラヘリカメムシ



エンドウヒゲナガアブラムシ

アブラゼミのぬけがらの見つけ方

今年の調査では、アブラゼミのぬけがらのほとんどは市街地の公園から寄せられています。みなさんの家の近所の公園でも発生しているかもしれません。探してみましょう。

アブラゼミのぬけがらは、特にハルニレやシラカバからよく見つかります。木の根元の地面に右写真のような大きな穴が開いていたら、それはアブラゼミの幼虫が出てきた穴です。これからは鳴き声が聞こえませんが、この痕跡を手掛かりに探してみましょう。今の時期はすでにほとんどのぬけがらが地面に落ちて残っているかもしれませんが、上を見上げると葉っぱの裏に付いて残っていることがあります。ハルニレの場合は結構高いところまで登って羽化していることが多く、驚かされます。(TK)



ハルニレの根元の、アブラゼミ幼虫が地上に出てきたときに開けた穴(矢印)。直径は1円硬貨より少し小さいくらい。

札幌市博物館活動センター

〒060-0001

札幌市中央区北1条西9丁目

リンケージプラザ内5階

TEL 011-200-5002

FAX 011-200-5003

<http://www.city.sapporo.jp/museum/>

編集後記

最近ツクツクボウシとエゾチッチゼミのぬけがらを探しに行きました。夏にたくさん鳴いていた場所なのですが、なかなか見つかりません。今年こそ見つけたいものです。(TK)

先月に野外調査のために韓国へ行ってきました(セミの調査ではありませんが…)。韓国では、札幌市にも分布しているミンミンゼミとツクツクボウシがたくさん鳴いていましたが、よく聞いてみると少し鳴き方が異なるようでした。(MS)